

## 放射線等に関する教育実践事例

学校番号・学校名	(小・43) いわき市立小名浜西小学校
〈実施日〉平成28年7月11日(月)	
〈実施教科等〉 1 理科      ② 学級活動      3 総合的な学習の時間      4 その他 (                      )  〈実践内容〉 題材名「いざという時の心構えと普段の生活」 1 放射線・放射性物質・ホットスポットなどについて確認する。 2 健康な生活を送るためにそうすればいいかを考える。 (1) 放射線がどんなところで使われているかを知る。 (2) 放射線を受けたらどうなるかを知る。 (3) 日常生活で気をつける点について話し合う。 3 いざという時の心構えを知る。 (1) 正確な情報に基づく行動の仕方 (2) 退避や避難をする時の注意点を知る。	
〈成果〉 ○ 子供たちは、自分たちが普段暮らしている身近なところにも、放射線があるということに気づき、また、その放射線を浴びてしまったら、自分の体がどうなってしまうのかを、しっかり考えることができた。 ○ その放射線を防ぐために、日頃から自分達ができることも考えることができ、放射線を防ぐために除染がされていたり、毎日放射線が測定され、自分達にその情報が提供されたりして、安全に暮らすことができていることにも気づくことができた。	
〈課題〉 ● 子供たちは放射線の存在はある程度分かってはいても、やはり、目に見えない分、実際の生活の中では実感が薄い。可視化をして放射線が実際に目に見えるようにすることで、実際にきちんと存在しているということが実感でき、より効果があったのではないか。 ● 子供たちのワークシートに、「放射線が病院で使われているという事実から、生活に役立っている事もあるので、無いほうがいいのか、それとも、無くってはならないのか、どっちがいいのか分からなくなった」という考えが書かれていた。放射線について、我々大人がしっかりとした情報を常にもち、放射線とうまく付き合っていく方法を子供たちに教えながら生活をしていくことが大事だと感じた。しかし、自分にはまだその知識や情報が少ないので、もっと勉強をすることが必要だと思った。	
資料作成担当者職(教諭)氏名(鈴木千恵子)	学校電話番号(92-4013)